

令和4年度全国高校総体 「審判員報告書」

C4 新体操女子

審判長 栗原 悠・副審判長 伊豆島知佳

1. 採点上打ち合わせた事項

当日の研修時間短縮のため、事前にオンライン研修(3時間)でルールの確認を行い、当日対面で映像研修(2.5時間)を行った。

【個人DB フープ】

- ・事前のオンライン研修では、細かいルールの確認事項を中心に研修を行い、当日は採点研修を行い目線の統一を図った。
- ・DBのフォームと基礎的特徴、手具操作が正しく行われているか、コンバイン難度のカウントについては、特に2つ目の形が正しく行われているか見極めることを確認した。
- ・Rのカウントについて、DBのシリーズでは正しいタイミングでの受けが行われているか、ターンジャンプを使用するものは0.5の誤差がないか見極めることを確認した。

【個人DB ボール】

- ・DB中の手具操作についての確認。(操作の繰り返しになっていないか)
- ・DB中の手具操作のタイミングについての確認。
- ・フェットピボット中の手具操作の関わり、回転数の見方の統一。360度の回転がないものや、20度を超える誤差が生じた回転以降はノーカウント。
- ・Rの投げの高さの確認。
- ・Rの回転グループの確認。定義に沿って行われているか、回転の繰り返しになっていないか見極め。
- ・イリュージョンのシリーズのRについて、定義を満たしているか、受けるタイミング等映像を見ながら確認した。
- ・Wについて、頭から骨盤を通して足元まで連動しているか、映像を見ながら確認した。

【個人DA フープ】

- ・基準とベースが満たされているかを確認し、基準がすでに含まれているものに関して特に念入りに確認を行った。
- ・特有の基礎と基礎手具技術要素が必要個数入っているか確認すること。
- ・回転要素は360度必要になっているため、回転がしっかりあるか見極める事。
- ・視野外を伴うDAでは視野外の位置を見極める事。
- ・高い投げからの転がしの受けでは基準が伴っていることを確認。
- ・バランスを基準としたDAでは静止があること。
- ・オンライン研修で伝えていただいた内容、映像研修で出てきた事項を何度も確認した。

【個人DA ボール】

8の字の操作では2つの円が見えること、片手受けはR以外での実施があることを確認した。

【個人A】

- ・動きの特徴では、作品の中に特徴的な動きが全くないのか、特徴を表現した動きを行おうとしていたのかを見極め、1.0なのか0.5なのか差をつけていく。
- ・ダンスステップコンビネーションは、8秒間を通して特徴があるものか、DAを含んだときにはDAもステップの一部として特徴はあるか見極める。DAによる中断や特徴が見られない場合はルール通り減点を入れていく。

- ・リズムの部分で引きが甘くなってしまうことがあったので、ただ音のカウントに合っているかだけではなく、音楽の特徴を生かした技や動きの選択がされているのかといった構成上の不一致に対しても見逃さないで差をつけていく。

【個人E】

映像研修を行い、落下・移動・DB・四肢の減点箇所を確認し、見方を統一した。

【団体DB】

- ・5名全員がDEの投げ受けの基準を同様に実施しているか、距離と高さのあるラージの交換かを見極めることを確認した。
- ・DBは個人と同様だが、5名全員が正しく行っているか判断することを確認した。

【団体DA】

- ・連係の投げの高さ、距離の確認。
- ・連係中に5名が関わっているか、プレアクロバットグループの重複、回転不足、投げ受けのタイミングについて、正確に行われているかを見極め。
- ・連係の開始と終了の確認。1つの連係が終了する前に次の連係が始まった場合、2番目の連係はノーカウント。
- ・複数投げが定義に沿って行われているかの確認。
- ・禁止要素（開脚や倒立）が含まれていないか、4秒を超えて手具なしの選手がいないかを見極め。
- ・投げ受けの際の手以外視野外、シリーズ、通過といった追加基準に関して、主要動作を行う選手（達）が正確に実施しているか見極め、正確に実施した場合に追加価値を与える。
- ・特有の基礎手具技術要素が5名全員で実施できているかの確認。

【団体A】

- ・ダンスステップコンビネーションは、8秒間を通して特徴があるものか、CCを含んだときにはCCもステップの一部として特徴はあるか見極める。CCを行うための準備などに特徴が見られない場合はルール通り減点を入れていく。
- ・リズムの部分では、ただ音のカウントに合っているかだけではなく、音楽の特徴を生かした技や動きの選択がされているのかといった構成上の不一致に対しても見逃さないで差をつけていく。

【団体E】

- ・実施の減点項目について、技術的欠点に対して1度の減点をする項目の確認と、各選手減点をいれる項目の確認をおこなった。映像研修の際に、落下・移動・DBの誤差・バランスの静止・四肢の減点を確認し、見方を統一した。また、全体を通して点数化する事を打ち合わせた。

2. 採点上起こった事項とその処理

選手、チームの、身体レベルと質の見極め・作品構成・完成度・実施度を正確に点数化し、選手、監督が納得できる採点を目指した。

【個人DB フープ】

- ・全身の波動がノーカウントになるため、減点が入る選手が大多数だった。ルールブック通りの正しい全身の波動を実施している選手は少なかった。
- ・DBは0.5の誤差でノーカウントとなる場合もあった。
- ・転がしが不正確となり2部位転がっていないため、手具操作の不足となること、足の下の持ち替えの操作が繰り返されたことからDBがノーカウントとなる場合があった。

- ・トーナーの前屈が見えず、フォームが不十分であることがあったため、しっかり前屈まで実施する必要があると感じた。
- ・フェッテローテーションでは、手具操作の不足（回転と手具操作のタイミングが合わず、2回に1つの手具操作が行われないケースもあった）、360度の回転不足（複数回転の途中、最後の回転など）となることがあった。
- ・フープのくぐり抜けのタイミングがDBの実施後となる、または実施前に行われる（ローテーションの前、プレパレーションでくぐり抜けてしまう）ことも見られた。
- ・もぐりのシリーズのRで、受けながらではなく受けのあとに3回転目となるため、全てノーカウントになるケースがあった。ほかにも、Rでは横軸回転の回転不足（360度なし）も見られた。
- ・バランスの静止が短いこともあったが、フォームが正しい形で静止が短いものか、フォームが正しくないものか見極めて判断した。
- ・価値点が高いDB・Rが多く実施された演技の際に、採点に時間がかかったことを反省している。

【個人DB ボール】

- ・バランスが振り上げになっており、静止がないものはノーカウントにした。
- ・コンバインDBの2番目のDBについて、静止がない、また手具操作のタイミングがずれているものはノーカウントにした。
- ・ボールを両手の周りで回すくるくる操作がDB中に正しく実施できていないケースが数件あった。（手具が止まっているためノーカウント）
- ・DAと組み合わせているDBについて、DBの形が不明確なものがいくつかあった。DBの定義から外れるものはノーカウントにした。
- ・Rについて、垂直軸回転グループの繰り返しが数件あった。同じ回転グループと判断したものは、繰り返しとしてノーカウントにした。
- ・床上からのリバウンドを膝より高い位置で受けたRについてはノーカウント。
- ・Wについては、頭から骨盤を通して足元まで連動が見えたものはカウントした。上半身はしっかり動いているが、足元が動いておらずノーカウントになるケースが多かった。
- ・Wは正しく行われているが、手具が静止しているケースがあり、ノーカウントになることがあった。

【個人DA フープ】

- ・基礎手具技術要素の不足があったものに関して、不足の個数に応じて減点を行った。
- ・高い投げからの転がしの受けで、基準がないケースが数件あった。また基準が不足しているDAをおこなっているケースも多々あり、ベースと基準が満たされないものはノーカウントとした。
- ・高い投げからの受けで、投げの高さが低いため低い投げの受けとしてカウントするケースもあった。
- ・360度の回転が不足、バランスの静止がないケースが多くみられノーカウントになることが多かった。
- ・Wを基準としたDAでは、不正確な波動のものはノーカウントとした。

【個人DA ボール】

- ・基礎技術要素の見えづらさがあった。（8の字、片手受け）
- ・片手受けでは高さが低くなってしまい片手受けとして認められないケースがいくつかあった。
- ・転がしのDAで回転の基準を行う際、360度に満たずにノーカウントになるケースや、転がしが2部位正確に転がらずにカットされるケースがあった。
- ・コンバイン難度の難度の2つ目でDAを実施する際、DBがノーカウントになることでDAも基準が満たされずノーカウントになった。
- ・投げの高さについては低いもの、高いものと明確であった。

【個人A】

- ・個人に関しては、技の羅列になってしまいつなぎ／リズムの減点が多く入ってきた。
- ・ダンスステップコンビネーションでは、研修で確認したように8秒の不足や、DAによる中断などで8秒間特徴が見えないものも多くその場合には減点を入れた。
- ・ダイナミックな変化でも多くの減点が入った。曲自体に変化はあるのだが、選手自身の変化は見られず最初から最後までパワーや緩急など変化の見えない演技もあった。やはり上位選手になってくるとパワーや緩急、そして技の選択に変化もあり見ていて分かりやすく感じた。
- ・ほとんどの選手が音楽のカウントには合わせて演技をしていたが、その曲の特徴を生かした技や動きの選択がされているかという部分では、上位選手はアイデアや工夫が見られオリジナリティのある内容になっていたように感じた。

【個人E】

難度において、誤差の減点が多かった。コンバイン難度やDAとの組み合わせの際、正しく行われていないことが減点につながった。特に、コンバイン難度の2つ目の難度が不正確になった選手が多かった。選手の質と実施力を見極め採点した。

◎フープ

転がしや軸回しをDAのために多く実施していたが、不完全なものが多かった。手具を遠くで扱っているかそうでないかで差をつけた。しかしながら、身体能力のある選手が大きな失敗をして得点に差が出なかったことが残念であった。

◎ボール

DAをするために演技構成上、転がしが多かったが、実施度が未熟で減点が多く発生した。また、基礎手具要素をする際、常に握っている選手が見受けられた。

【団体DB】

- ・全身の波動を5名が正しく実施しているチームは少なかった。
- ・コンバイン難度の2つ目のバランスで静止が短いことが多かった。
- ・フェッテローテーションの最終回転が回転不足となることが多かった。
- ・5名全員が交換の基準を同様に実施することで加点となるため、全員が正しく実施する難しさを感じた。1名のみ基準が実施できなかつたり、受けの後になる場合や、1名のみ投げが低くなり、加点がなくなることもあった。
- ・交換は8mが基準となったため、審判も全員が正しく実施しているか広い視野で見なければならぬと感じた。

【団体DA】

- ・1つの連係が終了する前に次の連係が開始され、連係が繋がっているケースが数件あった。
- ・複数投げについて、2つの手具が180度反対方向に投げられていないもの、また1つの手具が高くも長くもない投げになっている場合はノーカウントにした。
- ・CCが同時になってしまっているケースが数件あった。同時と判断したものはノーカウントにした。
- ・5名の関わりが見えないものはノーカウントにした。
- ・基礎手具技術要素について、ほとんどのチームが必須の数を入れていた。しかし、演技中のミスによって抜けてしまったのか入っていないケースも数件あったため、不足分減点をした。
- ・投げ受けの手以外視野外基準については、主要動作を行う選手が正確に実施した場合、カウントした。
- ・シリーズについては、相手からの投げのタイミングが遅くなったことで空中にある間に2回転回っておらず、シリーズの価値が切れるケースが数件あった。

【団体A】

- ・団体は個人に比べ、各チームの特徴が見えやすく感じた。

- ・新しいルールとなり、交換では0.2の加点を取るため8m以上の距離で投げていることが多くなったため、移動が目立った。特に2連続で交換を行うときに、1つ目の交換が短くなってしまったが2つ目の交換も大きな投げの加点を取るために再び広がり直して交換を行うことがあったため、リズム・つなぎともに減点が入ってしまうケースが多々あった。
その他にも、複数投げも高さか距離が必要であるためミスによる移動でリズムの減点が入ってきたように感じた。
- ・ダンスステップコンビネーションは個人同様、8秒に不足があるものやCCを含むことによって途切れてしまうものがあった。
- ・共同作業のコーラルが演技中に見えないチームや、カノンが5人参加していないように見えるものがあった。
- ・ミスによるものなのか構成上なのか、4秒を超えて手具無しの状態があり減点があったチームもあった。

【団体E】

- ・不正確な軌道による移動の減点、手具の喪失による減点が多くあった。移動に関しては1度のみ、落下に関しては各選手減点をおこなった。また手具間での衝突があり、その結果により減点をいれるケースもあった。
- ・手具を喪失し、演技面に手具が残ったまま予備手具を使いそうになったケースも起きたが、選手が対応し減点する事はなかった。
- ・DBの誤差・バランスの静止で減点をいれる事が多くあった。
- ・ミスなく演技したチームでも、選手5人の資質を見極め、全体を通して採点することの重要性を重く感じた。

3. その他特記事項・意見・感想等

【個人フープDB1 団体DB1 佐藤なつみ】

今大会に審判員として携わらせていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

個人・団体ともにDBの担当ではありましたが、高校生がこのインターハイにかけて一生懸命練習してきたこと、演技からその熱意とパワーを感じました。今年ルール改正初年度であり、短期間で新ルールに適應していることに高校生のレベルの高さを感じましたが、今後よりルールに沿いレベルアップしていくこともとても楽しみに思いました。

今大会の開催にあたり、コロナ禍の大変な中でしたが、高体連・香川県の皆様には大変お世話になり、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【個人ボールDB 団体DA 松田 桜】

今大会に審判員として参加させていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

3年ぶりの有観客となり、会場が一体となる雰囲気にも包まれながら、高校生の熱い想いを1つ1つの演技から感じ取ることができました。新ルールになり、芸術性が重要視されるようになったことで、昨年よりストーリー性のある作品が増えたように感じます。音楽を活かすようなオリジナリティのある連係も見られ、高校生のレベルの高さを実感いたしました。

最後になりましたが、開催県である香川県の先生方、全ての役員の皆様、高体連の皆様には準備から運営、片付けまで細やかなご配慮をいただきまして感謝申し上げます。そして、このような大会に審判員として貴重な機会を頂けたこと深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

【個人フープDA・団体E 高比良萌】

今大会の開催にあたり、大会を運営してくださいました開催県の皆様に心より感謝申し上げます。有観客での開催は、選手にとってとても大きな力になった事と思います。学校や地域を超えて、選手同士、保護者、役員の皆様方の温かい拍手に包まれる会場の中、選手・指導者・関係者の思いに感動いたしました。今大会の審判員として

参加させていただきまことに、深く感謝申し上げます。また、審判長・副審判長の先生方にもオンライン研修と審判研修ともに、今大会の方向性を示して研修していただき大変感謝しております。今後も今大会の貴重な経験を生かし研鑽してまいりたいと思います。ありがとうございました。

【個人ボールD A 坂本美紀】

構成上、片手受けが入っていても実施する際に低くなってしまったり明らかに両手受けになってしまったりするケースがあったが、Rでしか片手受けが入っていないというケースはなくR以外での実施が浸透されていると感じた。転がしについては弾みや2部位の不足なく明確に実施されたものはとても見やすくカウントしやすかった。基礎技術要素(特に8の字)では、選手の実施方法も含めて構成(組み込み方)に工夫があるものは見やすかった。

【個人A・団体A 浪江晴菜】

今大会に審判員として参加させていただき、貴重な経験をすることができました。このような状況の中、大会を運営してくださった香川県の皆様の準備や運営のお蔭で無事大会を終了できたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【個人E 一瀬留美子】

新ルールとなり、各都道府県代表の選手たちが、精一杯作品を表現しようとしているところに大変感動しました。今大会開催にあたり、地元香川県の皆様には大変お世話になりました。コロナ禍の大変な状況の中で大会運営して下さった開催県である香川県の先生方、関係いただいた全ての方々に心から感謝申し上げます。そして今大会に審判員として参加できたこと深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【副審判長 伊豆島 知佳】

新ルールになり、初めてのインターハイということで緊張感を持ちつつ、正しく採点することを心掛けた。

難度では、今までよりも回転の種類や回数に制約が付き、実施していてもノーカウントになってしまう例があった。コンバイン身体難度にも果敢にチャレンジしていたが、静止や手具操作の不明確さが目立った。

団体では、投げに要求される高さや距離のないものが多くでてきてしまうかと思ったが、フープの特性上投げやすさもあった為か多くのチームはほぼルールに則り構成されていた。ただ、昨シーズンよりも沢山の動きや基準を入れ込むためか、実施ミスが多く残念であった。

このような状況下で、制限はあったものの観客をいれての開催という決断をしてくださった開催県の関係者様には深く感謝申し上げます。最近にはなかった会場の盛り上がり、参加選手達の演技は緊張感がありつつも喜びに溢れたものだったのであろうと感じました。そのような中で、審判員として参加できたこと深く御礼申し上げます。

【審判長 栗原 悠】

コロナ禍が中々落ち着かず、感染者が増えた事により、今大会もどのような方法で開催されるのか、また本当に開催できるのか誰もが心配されていた事と思います。

しかし、この状況下にも関わらず開催実現に向けご尽力いただいた全ての方々のおかげで、久しぶりの有観客での試合を開催することができたこと、改めて幸せな瞬間でした。ルールが大きく変更になり、高校選抜の頃にはまだルールに追われた印象だった高校生たちの演技でしたが、今大会においては県の代表として、また学校の代表としてこの夏を懸けて練習したきたことが見ている人に伝わる、またそれが表現力として人の心を感動させる素晴らしい演技でした。審判員として選手や監督の想いを感じ、受け止めながら審判させていただき、その瞬間を共有させていただけたこと本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、コロナ禍の中、感染対策など今まで以上に大変な準備、運営にも関わらず、きめ細やかな対応をしてくださった開催地香川県役員の皆様、高体連体操専門部の皆様をはじめ関係くださった全ての方々に支えていただき今大会が終了できましたこと、厚く御礼申し上げます。